

中学校・道徳の内容項目の解説

国際理解・人類愛

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。	国際理解・人類愛

●解説

全体的な理解	今日、国際化の進展には目を見張るものがある。私たちは、国際的規模の相互依存関係の中で生きており、我が国が、国際的なかかわりをもつことなく孤立して存在することはできない。すでに、日本人が、自分たちの幸せだけを追い求めることは不可能になってきているのである。したがって、将来の我が国を担う中学生には、日本のことだけでなく、国際的視野に立ち、世界の中の日本人としての自覚をしっかりとつことが必要になってくる。
発達的な観点	中学生になると教科等の学習とも相まって、これまで以上に世界の様々な国々に対しての興味・関心が高まってくる時期でもある。また、情報化社会の中で諸外国のできごとや情報についても多くの知識を得ている。更に、世界の国々との様々な形でのかかわりを体験する機会も増えている。このような時期に、世界の人々とかかわり、異文化への理解を深める機会を得ることは大切なことである。今後ますます国際的な相互依存関係を深めていく社会の中で生きていく中学生にとって、国際的な視野と国際社会で生きる能力を身に付けることはこれまで以上に必要となろう。
指導の着眼点	指導に当たっては、他の国には日本と同じように、その国の伝統に裏打ちされたよさがあることやその国独自の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることを理解させることが大切で、他の国の人々や異文化に対する理解と尊敬の念が重視されなければならない。更に「世界の平和と人類の幸福に貢献する」という理想を抱き、その理想の実現に努めることが、国際理解にとって極めて大切である。その理想の実現のための基本になることは、国によってものの感じ方や考え方、生活習慣などが違っても、どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正、公平に接するということであり、それが真の国際人として求められる生き方でもある。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
低学年	(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。 郷土愛
中学年	(6) 我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。 愛国心・国際理解
高学年	(8) 外国の人々や文化を大切にする心をもち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。 国際理解・親善